巻頭言

学びの出発（たびだち）にあたり

中央仏教学院長　**北畠晃融**

朝夕の秋の気配のなかに、自然の法則をおもう今日です。

昭和47年の開設以来、34年の歴史を持つ通信教育に、新たに800名の新人生を迎えることができました。本当に慶びにたえません。新入生の方々は人生の新しい学びの出発をかみしめ、また在学生の方々も、学びの深まりのなかで初心に戻る覚悟をしておられることと思います。

「大雨により各地で何十人もの生命が…」、次の日の梅雨明け宣言と同時に今度は「山・川で何十人もの生命が…」と、連日無常の理を如実に知らされた今夏でした。また、今まで私たちがそれなりに考えてきました人間としてのあり方からすると、考えられないような出来事が、これでもかといわんばかりに連日報道されているのも今日です。それぞれに根深い問題・理由があることでしょうが、しかしその底に流れているものは、〝いのち〟の問題であろうと思います。生命そのもののうけとめ方が、わからなくなっていると言えるでしょう。

昨年の卒業式で答辞を読まれた河野さん（90才で卒業）は、「人間として生れさせて頂いた私の生命が、いろいろなものに支えられ、さまざまな御縁のなかで生かされていることに気付かせられました。残りの人生を聞法一筋に励み……」と述べてくれました。まさに、この世に人として生を頂いた不思議に目覚め、さまざまな縁で生かされる不思議に目覚め、仏の教えにであい、仏に成らせてもらう道に目覚められたよろこびの心を述べてくれました。本当に「人と生るること難（かた）く、生れて生きんこと難し。道聞くことも難ければ、仏、出でます、なお難し」（『法句経』）の教えの精神を通して、二度とくりかえすことのできない人生において、〝いのち〟の歩むべき道すじを学んでくださったのです。

仏教の原点は、目覚めの教えであるといえます。縁起としての生命のあり方、本当の生命のあり方に目覚める教えであります。互いに不平不満をぶつけあう自我中心性の生き方を打ち破り、ひろく深い生き方を示してくれる、つまり本当の生命にであわせてもらえる教えこそ、真実の宗教・浄土真宗の教えであります。

この通信教育での御縁を通して、深いいのちと、人生を見直す道を共どもに歩ませていただきたいと思います。　（仏教担当）